

将棋の海外普及

松崎 日和

1.はじめに

私は小学2年生から将棋を習っており、高校時代に『日本の伝統文化である「将棋」の時代に応じた継承方法』というタイトルの卒業論文を執筆した。その論文の結論として、日本の伝統文化である「将棋」の更なる普及のための5つの提案を行った。

1つ目は、将棋イベント等を企画して将棋を指す場所を提供すること。2つ目は、学校教育や部活動、学童教育などで将棋に触れる機会を作ること。3つ目は、棋士や女流棋士の知名度を上げるために独自のSNS、YouTubeチャンネル、オンライン将棋アプリ等を運用すること。4つ目は、海外の将棋人口の増加を図ること。5つ目は、女性の将棋人口の増加のための施策を行うことである。このうち、4つ目の「海外の将棋人口の増加を図る」という点においてまずは現状を把握することを今回のドイツ・アウクスブルク市での私の研究テーマとした。

2.将棋とは

「将棋の起源は、古代インドのチャトラングというゲームにあるという説が最有力です。いつ誕生したかは諸説があり、はっきりしていません。ヨーロッパやアジアの各地に広がり、さまざまな類似の遊戯に発展したと考えられています。西洋にはチェス、中国にはシャンチー、朝鮮半島にはチャンギ、タイにはマークルック、そして日本には将棋です。日本への伝来時期はさまざまな

説がありますが、物証に乏しく、はっきりしたことは分かっていません。伝来ルートは①インド～中国～朝鮮～日本と、②インド～東南アジア～日本のどちらかといわれています。」

(引用：日本将棋連盟 2024.11.19 参照)

3.将棋の奥深さ

本将棋の奥深さは、何通りもある次の手を考えることやそれによって相手がどう駒を進めてくるかを予想する点にある。自分がどう駒を動かすかによって相手の次の手も変わり、場面の有利・不利が一瞬で入れ替わることが将棋の醍醐味なのだ。本将棋以外にも、はさみ将棋・周り将棋・山崩しなどの将棋の駒を使ったゲームもあり、子供から大人まで楽しめるという点も魅力である。

4.元女流棋士カロリーナ女史の存在

将棋界には棋士と女流棋士という2種類のプロの存在がある。棋士は現在(2024年11月19日)時点、男性のみで女性の棋士は誕生していない。棋士になるためには奨励会という機関(三段から6級までで構成されている)三段になると半年単位でリーグ戦を行い、四段に昇段した上位二名が正式な棋士となる。一方、女流棋士は研修会という機関でC1クラスからB2クラスへ昇級した時点で、女流2級の資格を得ることができる。将棋界にはポーランド出身の元女流棋士であるカロリーナ女史(2023年3月31日に引退届を提出済み)の存在が

あった。彼女は漫画の「NARUTO」を通して、将棋と出会って来日し、女流棋士になった。現時点（2024年11月19日）、引退してしまったポーランド出身のカロリーナ女史以外、海外の棋士も女流棋士も未だ存在しない。

5. ホストファミリーとの将棋

実際に日本からドイツに将棋盤と将棋の駒を持参し、ホストファミリーに実物を見せて将棋について知っているかと尋ねると彼らは首を傾げ、名前もルールも知らないと答えた。だが日本の伝統的なボードゲームの1つであることを伝えたと興味を持ってくれた。実際に「山崩し」と「周り将棋」のルールを英語で説明し、やってみると大いに盛り上がった。



彼らと将棋をした中で感じたことが3つある。まず1つ目は、漢字を使わない国に住む人にとって将棋の駒1つ1つに書かれている、どの駒かを表す漢字が非常に難しいということである。実際にホストファミリーも駒を見て、漢字とその動きを覚えるのが難しいと言っていた。このことが海外で将棋が普及しにくい理由の1つになっているのではないかと感じた。2つ目は、ルールが複雑だということである。駒の動かし方を覚えて相手の王様を捕まえるという本将棋のルールが一番複雑で難しいが、ほかの将棋を使ったゲームも公式なルールが定まっていない。そのため、初めてそのゲームをする彼らもそれを説明する私も何を頼りにすれば良いか分からなかった。彼らにルールを説明する際、将棋を使ったゲームのルールを検索してみてサイトによって少しずつ違うということに気付いた。3つ目は、将棋のルールや駒の動かし方を多言語で説明するサイトや書籍が十分に揃っていないということだ。英語はもちろん多言語に翻訳された将棋のルールブックを充実させることで将棋に興味を持ってくれる海外の人の数を増やすことができると考えた。

6. 日独協会へのプレゼント

日独協会の方と話す機会があり、将棋について知っているかということを探ねるこ

とができた。日独協会の方の中には、日本に留学していた経験のある方、日本語を流暢に話したり、聞き取ったりすることができる方もいた。しかし、将棋については知らないという回答が返ってきた。ホストファミリーが将棋について知らないと言っていたためここでは驚かなかったが、やはりドイツでの将棋の知名度は低いなと改めて感じた。この回答を受け、日本の伝統文化である将棋を知ってもらおうと持参した将棋盤・将棋駒・駒置き・日本語で書かれた将棋の説明パンフレットをプレゼントした。この時にも日本語ではなく海外の方向け用の外国語に翻訳されたルールブックを準備しておけば良かったと実感した。

7. ドイツでの将棋の知名度

ドイツでの将棋の知名度は低いと言えるだろう。今回、将棋について知っているかどうかを聞くことができたのは日独協会の方と私のホストファミリーのみであるが、全員知らないと答えた。

8. 飛行機の中での将棋

行き帰りの飛行機の中の個人用座席モニターの中に「SHOGI SHOGUN」というゲームがあった。そのゲームは飛行機の中で将棋の対局が楽しめるものだった。ルールは将棋とほとんど同じであったが、唯一、敵陣の3段目以上に自分の駒が入った時に「成る（裏返して動き方を変える）」ことができない時があった。実際のルールとは少し違ったが、中東の航空会社エミレーツ航空の座席モニターに日本の伝統文化である将棋のゲームが入っていたことは普及という観点において非常に有効であると感じた。



9. 海外普及のための提案

実際にドイツ・アウクスブルク市を訪ね、ホストファミリーとの将棋の時間をふまえて、海外に将棋を普及させるために取り組むべきことの提案を2つ行う。まず1つ目は、将棋の駒に書かれている漢字を海外の人でも理解しやすいように、英語表記のものに変えることだ。駒の動かし方が矢印で示されている公文将棋が初心者にとって非常に分かりやすいのと同じである。2つ目

は、英語はもちろん多言語に翻訳された将棋のルールブックを作成することである。これにより、正しい将棋のルールを海外の人に伝えることができ、将棋を体験する海外の人とルールや駒の動かし方を説明する人の両方にとって便利なものになるだろう。

10. おわりに

実際にドイツ・アウクスブルク市を訪ね、将棋の知名度が予想以上に低く驚いた。ドイツに行く前はヨーロッパでチェスが知られているため将棋も知られているのではないかと考えていたが、将棋という名前すら知らないということを聞き、普及の重要性を痛感した。そのためにまず海外でも将棋を指すことができる環境を整えることが必要であると強く感じた。また言語の壁は高く、将棋というルールが複雑なゲームは特に言葉の壁のハードルを下げなくてはならないと感じた。